

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん		
所在地	〒021-0852 岩手県一関市三関字小沢47-2		
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果市町村受理日	令和3年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>※常に笑顔忘れず、利用者・家族・職員みんなが笑いの絶えない明るい雰囲気づくりに心掛けている。</p> <p>※2ユニットの為、合同で行事を行い、交流する機会を設けている。また、緊急時等、お互いに協力している。</p> <p>※季節ごとの行事や装飾に力を入れており、季節を感じれるように取り組んでいる。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、東北新幹線一関駅から車で2~3分の住宅地にある、日当たりが良く広い庭のある2ユニット(平屋)のグループホームである。周辺には、スーパー、コンビニエンスストア、保育園、小中学校、医療機関が多数点在している。自然環境と社会資源に恵まれ、日常の散歩コースには歩道も整備されている。開所当初に職員で考案した「明るく笑顔のたえないホーム」という事業所理念は、玄関や事務室、職員更衣室等に掲示され、職員に浸透し、事業所全体の雰囲気は明るい。コロナ禍でこれまで実施してきた事業や取り組みの殆どを中止や縮小せざるを得ない状況下でも、家族への写真入り「ほっとスマイル通信」を毎月送付し、また、介護計画見直し時期には、利用者と家族の意向確認もしっかりと行い、家族からの信頼度が高い。火災や地震を想定した訓練も隔月に実施し、地域住民や関係者との協働での災害体制構築を前向きに捉えている。コロナ終息後の各種活動の再開を期待したい。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内(玄関・事務所・トイレ)の目の届くところに掲示し全職員で共有し、『明るく笑顔のたえないホーム』を実践できるようにしている。	理念を目に留まるA4の色紙に印刷し、職員更衣室入口にも掲示している。両ユニットとも「明るく笑顔のたえないホーム」の理念は職員に浸透し、事業所内の雰囲気は明るい。レクリエーション活動等で利用者の笑顔を引出し、利用者の思いを受け止めようと入居時に丁寧に聞きとった利用者の強みや趣味も活かした介護の実践に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策の為地域の方との交流はできなかったが、一斉清掃の前日に利用者と職員で近所のゴミ拾いを行ったり、地域のペットボトルのリサイクルに協力している。	地区の自治会に加入し、地区情報も回覧板で収集している。コロナ禍の前は総会に所長が出席していた。月1回の一関一高校生の清掃活動、毎月の裁縫、年2回のオカリナ演奏等のボランティアの来所は、現在、軒並み中止している。年2回地域に回覧している「ほっとスマイル通信」は、4月に職員紹介、9月に敬老会の関連記事を盛込んでいる。利用者の散歩コースにあるご近所のたいやき屋でおやつを購入したり、班内の回覧板回しも手伝ってもらっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほっとスマイル通信の回覧を年2回行い、施設内の活動や状況を把握してもらう機会となっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為書面での報告になっている。面会時や電話などで意見があれば聞いている。	通常の会議は、奇数月の最後の月曜の午前にものりのホールで開催していた。現状は書面での報告のみとなっており、各委員からの意見や要望の吸上げが課題となっている。区長も委員に委嘱している。所長は、会議形態を現在の事業所活動の報告中心から、委員相互の活発な意見交換が出来るよう工夫していきたいとしている。

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を利用している利用者さんの面会時、介護相談員の訪問、運営推進会議の市の担当者、実地指導などを通じて情報交換するよう努めているが、今年度は新型コロナウイルスの影響があり出来ていない。	コロナ禍で、年2回の介護相談員の来訪や生活保護担当者の訪問も中断している。今年度市主催の報酬改定の集団指導は、ウェブ会議の配信で行われた。介護保険課の職員を運営推進会議の委員として委嘱しているほか、担当地区の地域包括支援センターとは、入居希望者の照会や空き情報等、年に10人程度について相互に連絡をとりあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。毎月のミーティング時にケアマネジメント委員会を行い、担当職員が毎月の事故報告書とヒヤリハットを集計したものを発表し声掛けや支援方法などを話し合っている。3か月に1回身体拘束適正化委員会を行い、身体拘束廃止の理解を深めている。	身体拘束適正化委員会は、両ユニット合同で職員全員が委員となって開催している。日勤帯は両ユニットとも玄関は施錠せず、入居間もない利用者の帰宅願望を伴う外出には、職員と一緒に付き添っている。スピーチロックについては、設内勉強会で取り上げているほか、気付いた都度注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を開き、虐待について理解すると同時に利用者さんに対しての言葉掛けや支援方法を職員同士注意しあいながら虐待が行われないよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に利用できるよう、施設内勉強会を通して理解するよう努めているが、現在活用している利用者さんがいないため知識不足であり、更なる知識習得を目指さなければいけないと感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた環境で丁寧にわかりやすく説明するよう心掛けている。利用者さんやご家族の不安や疑問を解消したうえで契約できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の時など、話しやすい環境づくりに努め、意見・要望を聴いている。	コロナ禍にあっても、半年毎の介護計画見直し時期には、必ず家族と連絡をとり合い、また随時の連絡等でも意見や要望を確認している。家族からの意見や要望は個々の利用者支援に関連するものが殆どで、事業所運営面の意見は聞かれない。利用者については、好きな事、嫌な事等を把握しながらケアに反映している。	

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アメーバ経営に取り組んでおり職員からの意見や提案を発する機会があり、実践している。その他ミーティングや所長との個人面談などで意見や提案を聴く機会を設けている。	事業所毎の収支経営を意識したアメーバ会議に、職員全員が毎月参加し、職員は経営感覚を意識して業務に当たっている。個別面談は通常年2回必ず行われ、新規職員は月に1、2回所長面談を行っている。最近実施した夜間の避難訓練において、屋外避難路が暗く、足元灯等設置の提案がなされた。ユニット毎に、グループラインも設定し、職員間の情報共有や意志伝達は円滑に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々の家庭環境なども考慮し労働時間や希望休を受け入れて、勤務表づくりをしている。また、能力・性格を把握し、向上心をもって働きスキルアップできるよう、資格取得に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を通して職員の問題意識を明確にするとともに施設外の研修会にも積極的に参加していたが、今年度は感染症対策の為出来ていない。実践者・管理者・リーダー研修を順次受講できるようにしており、職員各々に合った研修などを見極め参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アメーバ経営導入後法人内のグループホームと情報交換の機会が増えている。また、法人全体の会議の場を通して情報の共有をしている。口腔ケア研修会に参加しサービス向上に向けた取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームについて説明するとともに、実態調査時に施設での不安や要望を聞き、安心して生活できるよう体制を整えている。また傾聴することで信頼関係を構築し、安心して過ごしていただけるよう関係づくりに力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時、不安に思っている事など要望を出されるだけ詳しく聴き、利用者さんやご家族に耳を傾け意向や思いを受け止め、対応するようにしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・担当ケアマネージャーからの情報を聴き、職員間で情報を共有し「その時」必要な支援を提供している。また意思疎通が困難な利用者の方にも常に目配り・気配りしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切に、日常生活を通して個人で出来ること・やりたい事を尊重しながら役割を見つけ、家事手伝いを中心に支援し暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、毎月のほっとスマイル通信で近況報告している。通院の付き添いをお願いし、状態を理解して頂き共に支えていけるようにしている。ケアプランに家族の要望を取り入れ実践している。新型コロナウイルスの影響で電話での報告が主になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響で面会に制限があるものの、親戚・知人・友人の面会時ゆっくりお話ができるよう支援している。	コロナ禍での制約のもと、馴染みの人との面会や外出を止むを得ず制限しているが、利用者が定期受診する主治医、来訪する訪問診療医や訪問理容の方々が数少ない馴染みの者となっている。利用者の自宅を訪問しての墓参りなどのふるさとめぐりも、現在は中断しているが、近くのスーパーマーケットやコンビニでの買い物など新たな馴染みの場づくりや、訪問理容ではほぼ全利用者が利用するなど馴染みの人づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格を把握し、席の配置を工夫している。関係が円滑になるよう目配りしており、職員が間に入り利用者さん同士関わりあえる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係性を大切にしながら必要に応じて相談やサービスの情報提供などを行い、退所後の支援に配慮している。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にその人らしい生活ができるよう支援している。思いを伝えられない方は、家族に聞いたりこれまでの生活歴などから意向を汲み取るよう努めている。	1対1で支援する入浴介助や居室内でのお世話等、利用者との会話が弾み、本音が聞かれることがある。意志疎通が難しい利用者はみのりのユニットに2名おり、表情や雰囲気や気持ちを汲みとったり、調子の良い時には2者択一で利用者の希望確認をする場面もある。各ユニットで開催している毎月のカンファレンスの際には、担当職員が利用者から収集した情報を職員で共有しながら介護ケアに活用している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・担当ケアマネージャーから情報収集を行い、フェイスシートを使用しこれまでの暮らしを聴き、情報収集したものをファイルにまとめ、全職員で共有できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや業務日誌・連絡ノートやホワイトボードを活用し、状態を把握し職員が共有できるようにしている。1日2回バイタル測定し観察を行いながら、一人ひとりの現状を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングのカンファレンスで意見を出し合い、利用者さんの状態を把握、検討し、本人・家族の意見や要望を反映させながら現状に即した介護計画を作成している。	入居間もない時期の介護計画は、翌月には見直しで確定し、その後は6か月毎に見直しをしている。利用者毎の担当職員制を採っており、担当職員とケアマネとが協働で介護計画を見直した原案を、職員全体で検討し家族に説明後に確定している。家族からの要望を受けて、利用者の散歩や入浴の回数を増やすなどの見直しをプランに組み込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録に残し、職員間で共有している。また、ケアプランに基づいたチェック表で実践の状況を確認し、毎月担当職員がモニタリングを記入しプランの見直しが必要か評価している。全職員で閲覧し情報を共有しており介護計画の見直しに活かしている。			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナの影響でご家族との外出は実施できていないが、通院の付き添いの支援をしている。季節ごとのドライブなども支援し臨機応変に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウィルス感染症予防対策の為できていない。 家庭菜園や花植えなどを園庭で行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医に受診している。利用者さんの状態に応じて訪問診療を利用し、必要な時に適切な医療を受けられるよう医療機関との連携を密に図っている。	入居後も、家族協力の下、かかりつけ医への通院を継続しているが、コロナ禍での感染防止のため、職員の付添い受診に変更している。遠隔地の家族や身体状態の低下により月1回の訪問診療に切替える利用者もいる。訪問診療の利用者は、だんらん、みのりともに5名となっている。家族の同行受診では、必要に応じて健康状態の書類を主治医に提供し、受診後は結果を職員が確認のうえ、服薬情報書等を個人ファイルに綴って情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の勤務であるため看護師連絡ノートを活用し利用者さんの状態を報告し、出勤の日に確認してもらっている。更に、処置の方法などのアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人の施設での生活の様子をアセスメントを元にサマリーを作成し、情報提供を行っている。入院中ご家族や病院に連絡し状態を聞きながら、早期に退院できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで看取りの取り組みはない。本人と家族に、早い段階での話し合いを行い、その時に出来る支援(訪問診療や他施設の情報提供)をご家族に説明している。終末期の看護師による勉強会を行っているが更なる環境整備と知識の習得が必要である。	利用者や家族には、契約時に重要事項説明と併せ、看取りについて説明をしている。両ユニットともに一般浴槽しかなく、利用者の日常生活動作の低下時に、主治医や家族と処遇についての相談を行っている。相談時、継続利用を希望される家族もあるため、配置看護師を講師に終末期の勉強会を実施し、利用者支援に努めている。	両ユニットとも利用者の年齢構成が高く、介護度も徐々に高く推移している状況のもとで、家族の安心や利用者の生活を継続する観点から、現体制下で出来る重度化や終末期の支援強化に向け、職員の介護知識や技術の一層の向上を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、全職員が対応できるようにしている。普通救命講習会を定期的に行うようにしたい。急変時の対応について施設内勉強会などで学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(日中・夜間・地震想定)を実施している。外部ベルを設置している。年に一回総合訓練を行っており通報訓練も行っている。新型コロナウイルス感染症対策の為地区の方の参加はできていない。	火災や地震を中心に、隔月に訓練を実施している。年1回は消防署立合いの下、避難、消火、通報を兼ねた総合訓練も行っているが、近隣からの協力が懸案事項となっている。地震発生時の震度に応じた職員の招集基準を設けているが、基準外の非番職員、近隣職員2、3名も駆けつけるなど、職員の防災意識は高い。	隔月の訓練等を活用したり、法人職員と関係した防災対策の検討を進めながら、地域と協働した体制づくりについても段階的に構築されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格を把握し人格・プライドが損なわれないよう個々に応じた言葉掛け、接遇に心掛けている。	トイレ介助や入浴介助時には、必ず援助前の声がけをし、異性介助を拒否する利用者には職員が交代して対応している。毎月の施設内研修会はユニット毎に職員が輪番制で講師を務めている。入居時には広報紙等への写真掲載の同意を確認し、契約書には守秘義務違反の損害賠償責任も明記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の決定やおやつなど本人の希望を聞いている。また自己決定しやすいように、分かりやすい表現にしたり、選択肢を用意し答えやすいよう工夫している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し利用者さんのペースを大切にしており、無理強いせず個々の希望にそって支援している。裁縫・食事作りの手伝い・洗濯物干し・洗濯物たたみ・歌番組の鑑賞など一人ひとりのペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容など日常生活の中で支援できるようにしている。敬老会には正装し、化粧をする機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの食べたいものを聞き献立に取り入れれたり、準備、盛り付け、食器拭きなど利用者さん中心に役割を担っている。毎月同法人の管理栄養士に献立を見てもらいアドバイスを頂いている。多くの品目を使用するよう心掛けている。	利用者の誕生日には食べたい物を確認し、ユニット全員で寿司やちらし寿司などを食している。ミニ菜園から収穫したミョウガや枝豆を利用者が加工してずんだはっとうや職員が用意した竹を利用した流しそうめんなどを楽しそうに食べている様子は、「ほっとスマイル通信」にも掲載されている。季節ごとの行事食の提供のほか、日常的には色どりや食器を工夫したり、利用者から味見、片付け、食器拭き等の無理のない程度の協力を得る取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿に食事・水分摂取量を記録し栄養や水分の確保が出来ているか把握に努め、出来ない人に好みのものを提供し、摂取量の確保に努めた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各々の状態に合わせた口腔ケアを行いその際に口腔内の状態を観察している。また、毎月口腔ケア研修会に参加しており歯科医師・歯科衛生士よりアドバイスを頂き口腔ケアの方法などを学ぶ機会となっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェックを行い排泄パターンの把握に努めている。布パンツで対応できる方は布パンツを使用しオムツの使用を減らす支援をしている。自分から訴えができない利用者さんのサインを見逃さないようにしている。	利用者が自由にトイレに行って排泄できるよう、出来ることは利用者自身で行った後に職員が必要な介助を行うことを心がけている。尿漏れや失禁量を勘案し、使用するパット等の種類を選択しながら最小限の補助用品の使用に努めている。身体状態が低下し、昼夜ともおむつ使用となっている方が両ユニットで1名ずついる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時ヤクルト、昼食時ヨーグルト・オリゴ糖を提供し、食物繊維の多い食材を提供している。便秘の原因を探り薬に頼らず自然排便できるよう工夫している。起床時冷たい牛乳を状態に応じて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴時間は決まっているが、本人の希望を聞き希望にそった支援をしている。入浴したくないときは無理に勧めず翌日に入浴できるよう支援している。状態に応じシャワー浴・手浴・足浴も行っている。	両ユニットともに毎日午前中、脱衣から入浴、着衣まで1対1の介助で3人が入浴している。身体拘縮のある利用者には、毎日手浴を行っている。5月の菖蒲湯や冬至の柚子湯、りんご湯と季節感を出す工夫もしている。浴槽の深さに恐怖心を抱く利用者には入浴剤でにがり湯にし、安心して湯船に入れる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に居室で休息する時間を設けている。その他にも休息したい時に休めるよう支援している。日中の活動を通じて夜間に安眠できるよう支援している。音や明るさ、温度湿度に気を配り、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの薬局から服薬時の注意点や副作用についてアドバイスや情報を頂き、適切に服薬支援が行えるよう努め、変化を早期発見できるようにしている。また個人のファイルに最新の薬の情報をファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じたレク活動やドライブ・歌を唄ったり風船バレー・かるたなど室内でレクを行い気分転換できるよう支援している。日常生活の中で笑顔や張り合いが自然にできるような雰囲気づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為外出支援を行うことはできなかったが、季節ごとのドライブを楽しんでいる。また天気の良い日は園庭でおやつを提供したり、家庭菜園や花植えを行っている。	一日おきの食材購入や回覧板回し等は、コロナ禍で職員だけで行っている。季節毎のドライブも屋外には出ず、車中で花見等を行った。広い庭があり、天気の良い日には畑作業や外気浴に活用している。屋外外出が苦手な利用者には、庭でのお茶会等で誘い出している。周辺の散歩には、両ユニットともに半分程度の利用者が出かけている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームほっとスマイル だんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの金銭能力に応じた支援をしている。ご家族の協力のもと現金を手元に置きたい方は所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば職員が間に入り、本人に代わりお話ししている。手紙や写真が送られたときは職員が部屋に飾っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下などに季節を感じる装飾を行い、冷暖房の温度調節に気を配り、夏季は窓を開放し肌でも季節を感じてもらう工夫をしている。また、のれんを使用しドアを開けたままでもプライバシーが守られるよう配慮している。冬季は加湿器を使用し温度・湿度に気を配っている。また、こたつを設置し利用している。	だんらん、みのりともに季節感を感じてもらう装飾や利用者の写真をホールや廊下に飾っている。だんらんでは、畳の間にこたつを設置し、2、3名が昼寝等に利用する。両ユニットとも、日中はレースのカーテンも開け、明るく外の景色を眺められる様にしている。だんらんに比べみのりのホールは広く、運営推進会議の会場としても活用している。だんらんホールでは、元音楽教員のハーモニカの音色が流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士がトラブルにならないよう席を配慮している。共有スペースにソファも設置しており、自由に話ができ、思い思いに過ごせるような環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みが可能なこと等を説明し使い慣れたものを使用できることを説明している。住み慣れた部屋にし落ち着いて生活できるよう布団や家具など好みのものを使用できるよう支援している。	大きなクローゼットが備え付けられており、居室内はスッキリと整理されている。職員は入居前のオリエンテーションで、自宅で長年使った馴染みの日用品や愛用品の持参を丁寧に説明している。家族写真や愛用の置時計、童謡が聞けるCDプレーヤーや楽器、衣装整理ケース等のほか、以前は位牌を持参した利用者があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活ができるよう環境づくりを工夫している	居室前に写真と名前を掲示し、浴室とトイレも表示して、わかりやすいように工夫している。浴室・トイレ・廊下に手すりを設置しており、安全で自立した生活ができるよう環境づくりを工夫している。		